

# 緑のまきば

1992 No.26

小金井 緑町 教会  
小金井市 緑町四十六番三三  
電話〇四三・八一・七九六一  
編集・牧師 山本 圭一

## 説教 復活の朝

山本 圭一

(マタイ福音書28章1-15)

主イエスが十字架上で息を引き取られたのは、金曜日の午後三時ごろで(マタイ27章45)、ユダヤの暦ではニサン(三月)四月の十日であった(ヨハネ19章31)。

律法によれば(申21章23)処刑された者の屍体はその日のうちに埋めねばならなかった。数時間後の日没から土曜の安息日が始まるので屍体の処理は急を要した。

ユダヤの議会(サンヘドリン)の議員でアリマタヤ出身の金持ちのヨセフは、ローマ総督ピラトに願ひ出てイエスの遺体を受け取り「きれいな亜麻布」に包み、岩に掘った自分の「新しい墓」の中に納め、入口には大きな石を置いて立ち去った。彼はイエスの歩まれた苦しみの生涯に深い敬意を持ち、おそらく隠れた弟子の一人としてできるだけの弔意を表わし、鄭重にイエスのなきがらを葬った。

生きとし生ける者はすべて、いつかは冷厳な死の事実を直面しな

ければならない。いかに愛し合った人々でも墓の向うへ共に行くことはできない。葬られた墓は思讐を越えて亡き人を追慕する場所、永遠を想う静寂の寓居でもある。

### 知恵の愚かさと神の事件

ところが奇妙なことに、祭司長たちとファリサイ派の人たちは、番兵を立てて墓を見張るよう総督ピラトに願ひ出した。弟子たちが来て死体を盗み出し「イエスは死者の中から復活した」と言いふらすことを恐れたからである。

イエスが復活されたあと、復活の主に出会ったマグダラのマリヤともう一人のマリアが、急いで墓を立ち去り、弟子たちにそのことを知らせようと出て行った間に、数人の番兵は都に帰り、一切の出来事を祭司長たちに報告した。彼らはそれを聞いてあわてふためき兵士たちに多額の金を与えて「弟子たちが夜中にやって来て、イエ

スの死体を盗んだ」と言いふくめた。復活は実は作り話で、死体を盗んだ弟子たちの芝居に過ぎないと言っているのである。このような対応は過去の文献にも数多く登場するし、現代の多くの人々の中にも復活について、同じように否定する者は決して少くはない。例えば十八世紀の啓蒙時代、ドイツのライマールスは文芸思想家レッシングに次のように書き送った。

「弟子たちが心を合わせて一緒にいた閉ざされた扉の中で、当時のユダヤ人が懐いていた『天の雲に乗って栄光のうちに来臨する救主のイメージ』を、いかに有利に応用できるかを相談し合った。彼らの目的のためには、何にもまさって、イエスの体を早く取り去ることが必要であった。」

復活のメッセージは、これを否定し去ろうとする愚かな知恵と何と深くかわわっていることであらうか。それと同時に、主の復活は知者の知恵を滅ぼす神の事件として決定的に啓示されたのである。

「おはよう。」復活の主の呼びかけは何とも透き通る喜びをたたえていた。落胆と失意の夜がいかに永く続こうとも、イエスは全く新しい内容をもって「おはよう」と呼びかけてくださる。ユダの挨拶に潜む言葉の虚しさは、主に十字架の贖いによって、すべて拭い去られた。復活の主こそ「あなたの罪は赦された」と宣言し、喜びの言葉を創り出してくださる。

朝早く、見よ、太陽は昇る。救主キリストは甦えり給う。罪の夜は追い払われ、光と救いと生命が再び訪れた。ハレルヤ!

「朝早く起き、夜おそく休み、焦慮してパンを食べる人よ。それは、むなししいことではないか」(詩篇127篇2)。朝早い時に不安と不純な言葉は沈黙するがよい。朝こそ復活の主に属するから。旧約の一日は夕べに始まり、翌日の日没で終る。それは待望の時だから。新約の私たちの一日は、日の出の朝に始まり、翌朝の黎明に終る。それは成就の時、主の復活の時だからである。

「おはよう」と復活の主は婦人たちの行く手に立って言われた。ユダがゲツセマネの園で、イエスを捕えようとする人々を誘導して「先生、こんばんは」と言った挨拶と同じ言葉である。ユダは形だけの挨拶であった。内実は裏切りである。人への挨拶が形だけになった時、言葉は死語となるであらう。精神的退廃は挨拶失語症候群を惹き起す。

「おはよう。」復活の主の呼びかけは何とも透き通る喜びをたたえていた。落胆と失意の夜がいかに永く続こうとも、イエスは全く新しい内容をもって「おはよう」と呼びかけてくださる。ユダの挨拶に潜む言葉の虚しさは、主に十字架の贖いによって、すべて拭い去られた。復活の主こそ「あなたの罪は赦された」と宣言し、喜びの言葉を創り出してくださる。

朝早く、見よ、太陽は昇る。救主キリストは甦えり給う。罪の夜は追い払われ、光と救いと生命が再び訪れた。ハレルヤ!

「朝早く起き、夜おそく休み、焦慮してパンを食べる人よ。それは、むなししいことではないか」(詩篇127篇2)。朝早い時に不安と不純な言葉は沈黙するがよい。朝こそ復活の主に属するから。旧約の一日は夕べに始まり、翌日の日没で終る。それは待望の時だから。新約の私たちの一日は、日の出の朝に始まり、翌朝の黎明に終る。それは成就の時、主の復活の時だからである。

「おはよう」と復活の主は婦人たちの行く手に立って言われた。ユダがゲツセマネの園で、イエスを捕えようとする人々を誘導して「先生、こんばんは」と言った挨拶と同じ言葉である。ユダは形だけの挨拶であった。内実は裏切りである。人への挨拶が形だけになった時、言葉は死語となるであらう。精神的退廃は挨拶失語症候群を惹き起す。

「おはよう。」復活の主の呼びかけは何とも透き通る喜びをたたえていた。落胆と失意の夜がいかに永く続こうとも、イエスは全く新しい内容をもって「おはよう」と呼びかけてくださる。ユダの挨拶に潜む言葉の虚しさは、主に十字架の贖いによって、すべて拭い去られた。復活の主こそ「あなたの罪は赦された」と宣言し、喜びの言葉を創り出してくださる。

### 透き通る言葉の響き

「おはよう。」復活の主は婦人たちの行く手に立って言われた。ユダがゲツセマネの園で、イエスを捕えようとする人々を誘導して「先生、こんばんは」と言った挨拶と同じ言葉である。ユダは形だけの挨拶であった。内実は裏切りである。人への挨拶が形だけになった時、言葉は死語となるであらう。精神的退廃は挨拶失語症候群を惹き起す。